

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター和地
担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和7年10月28日（火） 13時30分 ～ 15時40分
2 開催場所	ふれあい交流センター湖東 大広間
3 参加者	委員：15人 事務局：4人 その他：10人（地域活動発表者4人、長寿支援課1人、高齢者福祉課1人、地域包括支援センター2人、庄内協働センター1人、市社協浜松地区センター東事務所1人）
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 協議事業</p> <p>(1)第1回協議体会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none">・第1回協議体での「サロン・カフェの違い」「人との関わりの必要性」「グループワークで出た意見」などを共有した。 <p>(2)地域の居場所活動の概要紹介</p> <p>【和地 地区】サロンほたる 代表 H様</p> <p>【伊佐見地区】瞳ヶ丘ふれあいサロン 代表 S様</p> <p>【庄内 地区】堀江カフェ 代表 K様、S様</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの活動概要やボランティアの様子、活動の困りごとなどを共有していただいた。 <p>(3)地区ごとの意見交換～新たな居場所を創出するために～グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none">・下記参照（和地圏域生活支援体制づくり協議体 グループワーク報告） <p>4. 情報提供</p> <p>委員より情報提供のあった伊佐見地区内にて10月26日に行方不明になった方がいることを共有。情報があれば110番や西警察署に連絡をしてもらうように伝えた。</p> <p>6. 連絡事項</p> <p>次回日程 令和8年2月3日（火）13：30～ 庄内協働センターホール(予定)</p> <p>7. 閉会</p>
5 今後の見通し・必要な対応	

- ・地域にある集会所や公民館以外で居場所を開設できる場所がないか地域調査を行う。
- ・地域の居場所の立ち上げを検討している地域住民がいないか等を委員とともに確認をしていく。

和地圏域生活支援体制づくり協議体 グループワーク報告

* サロンやカフェ活動の効果

- ・活動者の話を聞いて地域のために活動している人がこれだけいることに感動した。
- ・活動の参加者やボランティアのつながりは災害時に活用されていく。
- ・団地のなかの同じ年代で「お互い助け合おう」という意識が芽生えてきているように感じる。
- ・民生委員も多くは現域の仕事をしている人が多い。地域活動に参加しづらい委員が多いが、活動を把握し地域住民と交流していくことは必要だと思われる。
- ・介護保険を利用したサービス以外にも出かけられる場所が地域にあることは必要と思われる。また、初回相談で情報が乏しい際に聞き取りが出来るなど居場所以外の役割も担っていただいていると感じる。

* サロンやカフェ活動の今後・活動の促進

- ・サロンが開催されている今の集会所や公民館以外にも、参加者が歩いて行ける範囲での小規模な居場所が必要とされると思う。
- ・スタッフの負担が少ないカフェ形式が求められていくようになる。
- ・必要性はあるが、サロンやカフェの回数を増やしたり会場を変えたりするとスタッフの負担が増える。
- ・「サロンとは」「カフェとは」という講座を地区社協、市社協の合同で行うなどサロンに対する支援を充実されることも必要ではないか。
- ・カフェなどの活動を現在実施している会館以外にも広めていきたい。
- ・活動を広げていくには活動内容だけでなく、活動を行うことによる効果や目的などもしっかり伝えていくことが大事。自治会長へも「会場の借用」だけでなくこれらを合わせて伝えていくことが必要。
- ・カフェなどの活動のデモンストレーションを実施してみたらどうか。どのような活動か関係者にまず理解してもらうことから行い、協力者や理解者を増やしていくのはどうだろうか。
- ・新たな居場所を設立していくために、地区社協が中心となって動く必要がある。

* 地域活動の状況

- ・瞳ヶ丘公民館にて、共通で麻雀が好きな人が集まり新しく公民館にて麻雀の集まりができた。その後、人数が増え参加者同士の会話のなかで他のサロンやカフェの話題があがり、連れ立って一緒に来ることで新しい参加につながることもある。
- ・村櫛町では、毎月第2・4週におしゃべり会を開催している。参加者は女性がほとんどを占めている。